
最悪だわ！マジで！

河野夜兎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

最悪だわ！マジで！

【Nコード】

N6257I

【作者名】

河野夜兎

【あらすじ】

だらだらと休日をごす私の身にふりかかる悲劇……………

休日の醍醐味って言えば、とにかくダラダラと過ごす事。

彼氏は週明けまで他県へ出張中だから、いつもの3倍はダラダラを満喫している今週の日曜日。

一日中部屋着であるスエットのままで、我が家であるワンルームのアパートの絨毯の上で寝っころがり、ポテチをパリパリと食べながらげらげら笑いながらギャグ漫画を読む。

うーん、一人暮らしの休日、素晴らしきかな。

「あゝ、喉渴いたゝ。」

私はよいしょと立ち上がり、ポテチの油がついた指をスエットの上着で拭きながら、数歩先の冷蔵庫へ行き扉を開ける。

「げっ！」

私は愕然として開けっ放した冷蔵庫を凝視した。

「飲み物がないじゃん！」

…と言うより、からっぽっていったほうがいい位何もない。

まあ、元々料理なんてしないし食材なんて冷凍食品やらプリンだヨーグルトみたいなものしかないからアレなんだけど、さすがに飲み物が切れるのは痛い。

「うゝ、水道水は怖くて飲めないし…、かといってコーヒーも紅茶も何にもないし。」

ため息をついて「しかたないなあゝ…」と、渋々徒歩5分程の場所にあるコンビニへ行く事にしたのだ。

とりあえずは洗面所の鏡を覗く…がしかし、
「まあ、いっか、別にこのまんまで。」

ヘアブラシで軽く髪をとかして、財布に携帯、部屋の鍵だけ手に
持って私は部屋をでた。

足元はクロックスのサンダル。

顔は勿論すっぴん。

三十路をゆうに越えてるのにすっぴんで出歩くってのは、かなりの
ツワモノ（めんどくさがり）か、はたまたよほど自分に自信がある
のか…。少なくとも私は後者ではない。これだけは胸を張って言え
る。（なんか自分で言っときながらちよっと悲しい…）

サンダルを引っ掛けるようにダラダラと歩き、欠伸混じりに空を
見上げる。

「はあ…、いい天気。」

何となくつぶやいてみた。

歩いて5分程でコンビニにたどり着き、自動ドアをくぐる。

そして、夕飯用のお弁当と夜食用のカップ麺、ミネラルウォーター
の2Lを1本にパックの紅茶とカフェオレ。後お菓子を少々。

買い物カゴに入れて、お菓子売り場からレジへ向かい歩く最中に、
自動ドアが開き、ふと視線をやると…

（げっ！！！な、なぜ）

出張中であるはずの彼氏のカズオが、店に入ってきたのだ！！

マズイ・・・
非常にマズイ。

カズオには、実はこんなだらしな格好は見せた事がないのだっ！！
ウチに来る時はそれなりにナチュラルに装いつつも、服装もメイクも結構バッチリ気合いを入れているのだっ！！

（マズイっ…、ひっじょ〜にマズイ）

私はお菓子売り場に身を潜めて、カズオの歩く姿を固唾を飲み目で追う。

バレないように…
バレないように…

カズオが雑誌コーナーから、開き扉の冷凍庫へ歩くと、私はお菓子売り場から雑誌コーナーの反対側の角に身を潜める。

そしてひらめくいたのだっ！
雑誌を立ち読みするフリして顔を隠してやり過ごそう！

まさかカズオは私がこんなスエットのすっぴんの若干頭ポサポサで、こんなところにいるなんて、絶対に気付かないはずだ！！

カズオが開き扉のジュースの冷蔵庫へ背中を向けて歩く隙に、私は身を屈めて雑誌コーナーへ忍び足で向かい、テキストに雑誌を手に取り、立ち読みするフリをして顔を隠した。

雑誌の隙間からカズオの動向をチェック。
手には缶のコーヒーがふたつ。

オイオイ…まさか…とは思うけど、ウチに来るのか!?

つか、出張はどうしたんだよカズオさんよ。

早く帰ってこれたんなら、そう連絡してくれよっ!!

(あゝ、どうでもいいから、お願いします。早く会計済ませて店から出て行ってちょうだい!)

ヤバイ…なんか手に変な汗かいてきた。

カズオは、デザートが並んでいるコーナーに止まり、ポケットから携帯を出した。

(ヤッベーーっ!!!!携帯っ!着メロ鳴ったらソツコーアウトじゃん!)

万事休す…

ああ、終わった。

三十路過ぎてもキュートで「えへっ♪」なイメージの私よ、さようなら。

しかし…

(ん?鳴らない)

私の携帯は沈黙している。

「あゝ、もしもしい♪サエちゃん?」

なっ! 何ですと?

「今から、サエちゃんの好きなカスタードプリン持って行くね♪」

な、な、な、な、

「あははっ、あいつなんていいの、いいの、愛してるのはサエちゃんだけだよ♪」

「何だとこのヤローーーーーーっ!!!!」

コンビニ内に私の絶叫が響き渡り――

店員どんびきの修羅場、修羅場、しゅらば~~~~っ！

めーいっぱい暴れた後

私の恋にまたひとつ、終止符が打たれましたとき。

おわり

(後書き)

誰にも会いたくない格好の時に限って、偶然誰かと出会う。

以前とあるスーパーでいつもキメつとかわいらしいパートさんに偶然出会い、「お願いだからこんな格好の私に出会ったなんて会社でバラシたら……コロスわよ。」

とげらげら笑いあった事をふと思い出した(笑)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6257i/>

最悪だわ！マジで！

2010年12月10日19時21分発行